

研究要旨

1. メニエール病の診断基準について、日本の新基準と主にバラニー学会委員会案とを比較した。日本の診断基準では内リンパ水腫を病態としており、バラニー学会の診断基準では触れていない点である。バラニー学会の診断基準は聴力の基準が詳しく設定している。一方、日本の診断基準は前庭型、蝸牛型などの非定型例について記述している。メニエール病の病態は内リンパ水腫であることから、メニエール病の診断基準には内リンパ水腫推定検査など病態が反映される検査の記載が望まれる。

2. 内リンパ水腫画像検査としては、造影剤を用いたMRI検査がある。同検査により、内リンパ水腫の存在を可視化できるようになった。内リンパ水腫推定検査としては、グリセオールテスト、フロセミドテスト、蝸電図が挙げられる。近年はグリセオール、フロセミドを用いたVEMP検査が試行されている。

A. 研究目的

1. メニエール病（Ménière's disease: MD）の診断基準について国際的な比較を行う。
2. 内リンパ水腫の画像検査および推定検査について調査する。

B. 研究方法

1. 日本の新基準（研究班基準：2008年）、バラニー学会の基準（2015年）、AAO-HNSの診断基準（1995年）を比較した。
2. 造影MRI検査を用いた内リンパ水腫の評価法とその他の内リンパ水腫推定検査を提示する。

（倫理面への配慮）

文献調査のため、倫理的な問題は生じない。

C. 研究結果

1. 日本の新基準では、MDの病態は内リンパ水腫であるとの考えに基づいた症状や所見の特徴が示されている。蝸牛症状のみ、前庭症状のみを呈する症例は、以前は疑い例としていたが、非定型例とし、「蝸牛型」、「前庭型」と定義し直している。また、注意事項として内リンパ水腫推定検査についての記載がある。

バラニー学会の基準では、めまいの持続時間と聴力閾値の上昇がみられる周波数帯が絞られているが、繰り返す症候性めまいと変動する蝸牛症状があればメニエール病と診断できる。内リンパ水腫については、病理学的関

連はあるが、すべての臨床症状が説明できるわけではないとしている。また、コメントの中で片頭痛関連めまい、内耳自己免疫疾患（Autoimmune inner ear disease: AIED）、さらにTransient ischemic attack (TIA)や脳卒中の除外について触れている。

以上2つの診断基準では、MDのめまいの性状は回転性であることが多いが、浮動性であることもあるとしている。

AAO-HNSの診断基準（1995年）は、バラニー学会の基準の基礎となっている。この基準では、めまいの性状は回転性であるとしている。蝸牛症状については、少なくとも1度は聴力検査により、変動性あるいは固定した感音難聴があることとしている。また、解説の中でMDの病態は内リンパ水腫であると限定している。

2. 2007年にガドリニウム鼓室内注入24時間後の3テスラMRIにて、内リンパ水腫の可視化が報告された。最近では、通常量のガドリニウム静注4時間後のMRIでも内リンパ水腫の描出が可能になっている。

従来からの内リンパ水腫推定検査としては、グリセオールテスト、フロセミドテスト、蝸電図がある。基本的には、グリセオールテスト、蝸電図が蝸牛の、フロセミドテストが半規管の内リンパ水腫を推定する検査である。近年では、これらの検査にVEMP検査を組み合わせる研究が進められている。グリセオー

ルVEMP検査、フロセミドVEMP検査共に内リンパ水腫推定検査として有用であると報告されている。

なし。

D．考察

1．メニエール病の病態は内リンパ水腫である。研究班基準では、内リンパ水腫という病態を基軸としていて、症候はそれに随伴するものとしてとらえられている。一方、バラニー学会の基準では、臨床症状に重きを置いた上で、「原因既知の鑑別疾患」を除いている。内リンパ水腫そのものには重きを置いているわけではない。これは、メニエール病の病態が内リンパ水腫であることを否定するわけではなく、内リンパ水腫が側頭骨病理でしか診断しえないための苦肉の策とも考えられる。結果として、研究班基準は「メニエール病」の診断基準、バラニー学会の基準は「メニエール症候群」の診断基準に近いものとも言えるかも知れない。

2．内リンパ水腫画像検査、内リンパ水腫推定検査は、内リンパ水腫の存在を臨床上知りうる有用な検査である。両検査がより発展し、バラニー学会の診断基準に病態を考慮した項目が入ることで、症状と病態を反映したより適切な診断基準の確立が期待される。両検査の更なる発展が望まれる。

E．結論

1．メニエール病の国内外の診断基準の調査を行った。

2．内リンパ水腫画像検査、内リンパ水腫推定検査の更なる発展が期待される。

F．研究発表

1．論文発表

なし。

2．学会発表

なし。

G．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1．特許取得

なし。

2．実用新案登録

なし。

3．その他